



# 社会科学研究部報

令和6年5月20日  
浜松市教育研究会 社会科学研究部

## 令和6年度 社会科学研究部 主任者会

4月11日（木）に初生小学校にて、今年度の研究の概要や組織について確認し、令和6年度の社会科学研究部のスタートが切られました。

### 1 顧問校長あいさつ

「社会科をなぜ学ぶのか」ということを改めて考えてもらいたい。様々な考えがあると思うが、私は「人」について学ぶことに意義があると思う。例として、都田にある大型ホームセンターでは、農業用作業用品の品揃えが豊富である。しかも、全国と比べても日本トップレベルの品揃えで、わざわざ遠くから買い物に来る客も多いとのこと。お店側は、都田という立地を活かして、品揃えを考えている。5年生の社会科においても、コンビニエンスストアの品揃えが、客のニーズによって変化していることを学習する。つまり、人々の幸せのために社会科を学ぶ必要があると考える。

気田小学校 校長 堀部 憲一



今年度も、研究授業や4つの専門部に分かれての活動を通して、社会科への学びを深めると共に、各校の社会科実践が発展するように努めてほしい。

### 2 令和6年度研究部長・副部長選出



部 長	鹿玉小学校	教諭	小野 弘太郎（写真左端）
副部長	葵西小学校	教諭	藤田 直也
	村櫛小学校	教諭	栗野 高史
	初生小学校	教諭	大木 健太郎
	瑞穂小学校	教諭	本椋 亮介
	井伊谷小学校	教諭	山田 航生（写真右端）

会場の先生方の御承認を受け、令和6年度の研究部長・副部長が選出されました。

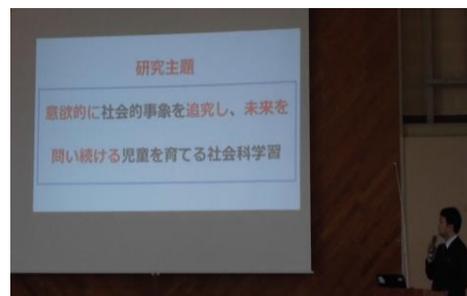
### 3 令和6年度研究主題

鹿玉小学校 教諭 小野 弘太郎

令和6年度の研究主題は、昨年度に引き続いて「意欲的に社会科事象を追究し、未来を問いつける児童を育てる社会科学習」とする。特に、意欲的・追究・未来を問いつけるという言葉にもあるように、主体的で対話的な深い学びを通じた授業改善を念頭に置いた主題となっている。これまでの社会科の授業の一部は、学習すること、調べ方、まとめ方などが教師主導で行われることもあった。児童の主体的な学びが行われるように、導入や発問、調べ方、まとめ方

などを教師の側が改善していくことで、社会科の授業を楽しみにしてくれる児童を増やしていきたい。魅力的な導入から学習問題を設定し、予想を立て、複数の調べ方や資料で得られた情報を他者と協働しながらまとめていく。このような授業への転換が求められている。

本日、集まっていたいただいた社会科主任の年齢構成を見ると、20代から30代の若い先生が多く、社会科主任としての経験年数も2年以内の方が4割を占めている。もちろん、長く社会科主任を経験されている先生も多くいるが、担当学年も高学年が多いわけではなく、1年生から6年生、発達支援学級までまんべんなくいることも特徴として挙げられる。この様々な年代の教員が所属しているという特徴は、社会科研究部の強みであると考えられる。ベテランの先生方の指導技術を継承し、そこに若い先生方のエネルギーや発想を取り入れることを通して、研究主題へと近づいていきたい。先生方自身が、力がついたらと思う研修を行っていただきたい。昨年度、新設された「臨地研修部」をはじめとした4つの研究部の活動を通して、先生方が力の高まる研修を共につくっていききたいと考えている。



#### 4 年間事業計画

##### <第1回研修会>

- 日時 令和6年5月22日（水）
- 会場 浜松市教育会館
- 研修内容
  - ・本年度研修テーマの趣旨説明
  - ・浜松市教育センター指導主事 講話

##### <第2回研修会>

- 日時 令和6年8月1日（木）
- 会場 みをつくし文化センター
- 研修内容【午前の部】
  - ・臨地研修（細江・引佐地区を予定）【午後の部】
  - ・実践発表
  - ・講演会
  - ・分科会

##### <第3回研修会>

- 日時 令和6年10月30日（水）
- 会場 市内小学校3校（伊佐見小学校・可美小学校・中瀬小学校）
- 研修内容
  - ・研究授業
  - ・研究協議

#### 5 専門部の活動

授業研究部では、第3回の市教研に向けた指導案検討及び運営準備や当日の運営を行う。若手からベテランまで様々な立場の方との意見交換を通して、研修主題の達成及び、社会科主任の授業力向上を図っていく。

教材研究部では、今年度新たに変わった教科書の分析や、社会科を楽しみにしてくれる子どもの育成を目指した、魅力的な教材開発を行っていく。

社会科自由研究部は、自由研究を通して「社会科好きの児童」を育成することを目的としている。昨年度提案した、自由研究のテンプレートを改訂するだけでなく、自由研究の審査会を通して資質向上を目指す。

臨地研修部では、第2回研修会臨地研修に向けた企画・運営を行う。社会科の教材研究において重要な、現地に行き調査する技能や、地域の実態を把握する力を高めることを目指していく。

（文責：光明小学校 木下尋之）